

津高同窓会報

発行所
津市新町3丁目1-1
津高等学校局
同窓会事務局
0592-28-0256
共立印刷株式会社



ごあいさつに代えて

学校長 袖野貞三

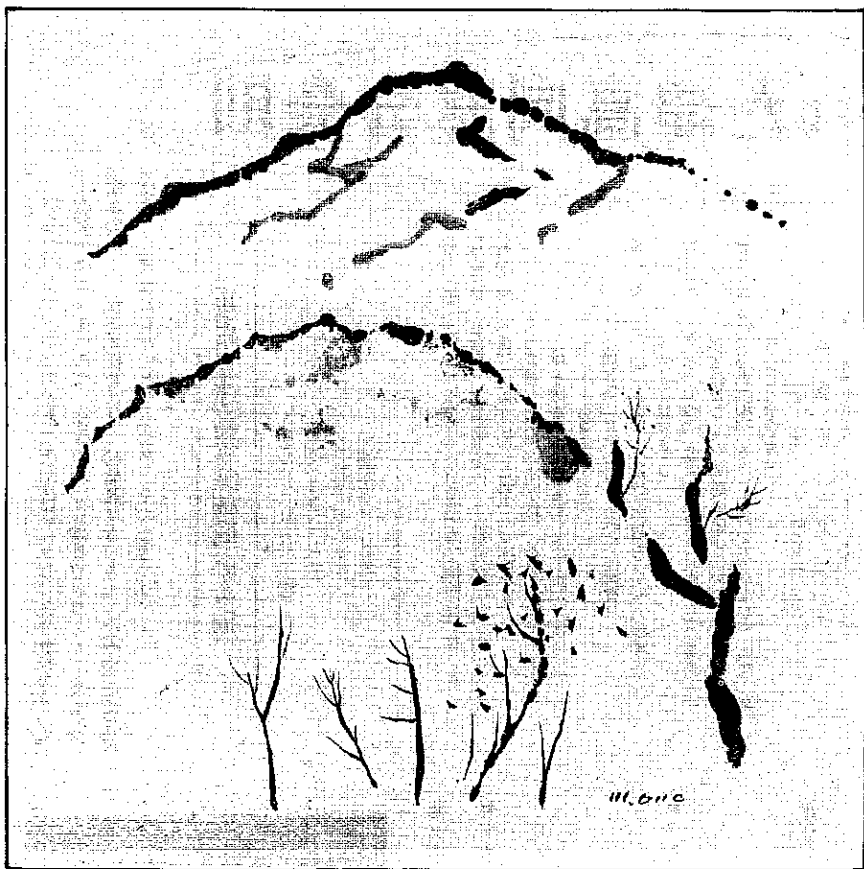
この会報でごあいさついたしますのは、はじめてかとぞんじます。昨年四月、津中学草創のむかしからか

ぞえて、第六代の校長として赴任いたしました。その前年に執行されました百年祭の歡喜がまたそのまますま学校に満ちていまして、この学校の歴史の重量が肌身に伝わってきました。百年記念事業のさいごにこのこつておりました三万二千同窓会の新しい名簿がやがて出版されるやにききますが、縦に横に「津高」の名のもとに、生涯むつまじく、いよいよご活躍なきて、母校の名をいやがうえにも高からしめてくださることを切願いたします。また八月一日の同窓会総会には、ぜひお集りいただき、親しくお目もじできますことを、いまからのしみにいたしております。

83年版同窓会名簿発行へ作業すすむ

調査カード

とどぎましましたか、出しましたか、友人の移動知らせてほしい



経ヶ峯 (え) 小野雅生

表紙絵を

小野雅生氏に依頼

すでに、「名簿」の表紙絵を、昭和20年卒の小野雅生氏に依頼しました。日展作家で十数回入選、こころは中日賞を受賞、光風会全国展で選抜された「春の



名簿出版KKにて

予約前納制です...

家庭へ直送、二月下旬発行

こんどの「名簿」は、姫路市にある日本名簿出版KKで、いま、コンピュータによって、三万有余同窓生にたいする徹底的な調査が、何回となく、くりかえされています。なお住所その他が未確認になっている方の名前を、一覧表にして同封しました。ぜひ、目をとおしていただいて、ご存じの方がいらっしゃら、津市新町三一一一、津高同窓会事務局へ知らせてください。みなさんのご協力によって、より正確な「名簿」をつくりたいとおもいます。

発送した「調査カード」は二四、二八三枚。そのうち、返信のあったもの一四、一五六枚、不明で戻ってきたものが六五五枚、音信不通が九、四〇〇枚あり、調査カードの督促は一〇、三七六枚出しています。

同窓会会長が随想集「すばらしき人々」を出版

吉原一真会長の随想集「すばらしき人々」が、八月一日、同窓会総会の日を期して、東京の紀尾井書房から出版されます。

もいます。

郷土紙誌などに発表されたものなど、数十篇(約三百ページ)の底を流れるものは、やはり母校恩慕。津高と切ってもきれぬ一冊です。「あ

吉原さんをめぐる人、人、人とのやわらかな交情。氏一流の機知と先見性、四角ばらない、ひらいた文章力の行間にじむ数々の教訓に共感しつつ、たのしめる読みものです。

高い風格こそ、現代に、もつとも必要な教師像だ」と敬愛されてやまぬ故林義明先生の遺作(三重県立美術館所蔵)が扉にかげられ、また、タイトルのあちこちに日展作家・光風会の小野雅生氏の瀟洒な小品も目をたのしませてくれます。頒価は二〇〇〇円です。

あ母校」第三集といってもいいとお

〈紀尾井書房、千代田区紀尾井町三一一三 TEL03-261-2800〉
〈振替 東京一三三八四二 一三三〇〇〇円 送料二五〇円〉

昨年改正された津高同窓会会則

三重県立津高等学校同窓会則

昨年の総会で、つぎのように会則が改正され、各卒業年度より若干名の代議員をえらんで、総会の前に代議員会をひらき、総会の議案を決め、いわゆる総会には、代議員はもちろん、多数有志の参加によって盛会にしたいというのが、その主旨です。

昭和35年8月7日制定施行
昭和46年8月1日改正
昭和48年8月5日改正
昭和52年8月7日改正

- 第一条 (名称) 本会は、三重県立津高等学校同窓会と称する。
- 第二条 (事務局) 本会の事務局は、三重県立津高等学校内におく。
- 第三条 (役員) 本会は次の役員をもって構成する。
 - 正会員 三重県立津中学校、三重県立津高等学校、三重県立津高等学校の卒業生および上記の三校に在学したもので入会を希望するもの。
 - 特別会員 右記の三校に在職した教職員。
- 第四条 (目的) 本会は、会員相互の連絡をはかり、親睦をあつくることを目的とする。
- 第五条 (事業) 本会は、前条の目的達成のため、会員名簿および会報を発行し、その他必要な事業をおこなう。
- 第六条 (役員および顧問、参事) 本会に次の役員をおき、顧問、参事をおくことができる。
 - 会長 1名
 - 副会長 6名
 - 庶務 1名
 - 会計 1名
 - 常任幹事 若干名
 - 年度幹事 若干名
 - 会計監査 4名
 - 顧問 校長および元会長
 - 参事 各地区同窓会長および特別会員中、原則として10年以上母校に在勤し、本会の業務に参事担当した母校出身者
- 第七条 (役員の出選)
 - 会長、副会長、庶務、会計および会計監査は、総会で選出する。
 - 常任幹事は、年度幹事及び会長が指名したのから選出し、総会の承認を受ける。

第八条 (役員任期) 役員任期は2年とする。但し兼任は妨げない。

第九条 (機関) 本会に次の機関を設ける。

- 総会 年一回
- 常任幹事会 年一回
- 年度幹事会 年一回

第十条 (事務局) 本会の業務の円滑化をはかるため事務局を設ける。事務局には、書記をおくことができる。書記は、庶務、会計の事務を処理する。書記の任先は、常任幹事会の承認をえて会長がこれをおこなう。

第十一条 (会計) 本会の会計年度は、毎年6月1日より翌5月31日までとする。

本会運営に関する経費は、入会金、会員の納入する終身会費(一口、五〇〇円)また、年度会費(毎年一〇〇円)、寄付金、その他をもってこれにあてる。正会員は、入会に際し、入会金として一〇八〇円を納入する。

第十二条 (支部) 本会に支部をおくことができる。

- 本会会則は、昭和48年8月5日からこれを施行する。
- 本会の会則は、総会において、出席議員の過半数の賛同により改正することができる。

- 昭和56年8月2日改正
- 代議員、会長、副会長
- 常任幹事、年度幹事、会計
- 会計監査及び会長指名の若干名よりなる。
- 代議員会
- 代議員会
- 昭和56年8月2日
- 代議員会
- 代議員



〈揮毫は千草光洞氏〉

ことしの津高同窓会
総会(一)案内

一、八月一日(日) 総会は午後一時半より
代議員会は十二時より
一、津商工会議所ホールにて
〈津市丸之内城趾東〉

昭和五十七年度津高同窓会総会のポスターができました。図柄は去年と同じです。千草光洞氏の揮毫によるもの。年々図柄を変えないほうがよいという意見があるからです。百年記念祭の感激がまださめやらぬうちに、はや百二年をむかえての総会。それにふさわしく盛大なついでにしたいとおもいます。とくに若い世代の人たちのご出席が年々少なく、さびしい側面もあり、友人、知人お誘いのうえ、万障くり合わせ、元氣な顔をみせてほしいと事務局は呼びかけています。親しみぶかく、出席してよかったですとおもえる魅力ある総会にするため、どしどしアイデアを事務局までお寄せください。

三重ざくら名古屋支部会ひらく

五月二十四日(日)午後一時、名古屋千種区山門町にある「松楓園」で三重ざくら名古屋支部会がひらかれました。幹事をつとめてくださったのは、大島寛子さん他、名、昭和十四年卒の方。出席の方は、大12年2名、昭和11年2名、12年1名、13年2名、14年3名、15年2名、17年2名、18年2名の計十六名、小人数でしたが、なつかしく母校の歌など、いっしょに歌いました。来年は昭和15年の方々が、世話役をつとめてくださいます。



ニコチン追悼

「見先生に詩心学ぶ」

① 二月二十日、見先生の訃報をきく。雨天体操場のなかを、なんべんもぐるぐると、軍歌をうたわさせながらぼくらは歩かせ、みずからは中央に佇たれて、ぼくらがうたう軍歌にきき入っておられた。先生はリズムにのって、からだかゆれてさえおられた。軍歌は「戦友」であったり、ああ、あの顔で、あの声で、であったりした。軍歌であっても、共に、士気を鼓舞するというより、兵士が故国を思う、帰りたいくなる歌であった。

一見藤太郎先生は、『津中学校行進歌』というのを作詩された。釈間先生作曲であった。「あゝ母校」に歌詞を先生の直筆で書いてもらいにおじゃましたのが別れになった。

国漢の先生にでなく、見先生に詩心を学ぶことができた。享年九十一歳。実にさみしい葬儀であった。

花はくれな一 柳はみどり

吉原一重



吉原同窓会長

に徴し、一六七方の県民に呼びかけて、その協力で、やってしまつた。贅美を避け、先陣の予算の割以内で国体をやろうと計画し実行した。各県の青年たちの運動会だと割きつたことが、国体の原動力にもなつた結果になった。一人のシブシー選手なしの自前、天皇杯も皇后杯もたない。三重の青年もその気になればやってくれるものだとなつた。植樹祭も国体方式で簡潔のうちに終つた。両陛下も「機嫌うのわしく帰京された。

会にもあたたかい寛容があった。花はくれない、柳はみどりに水も清い土地であった。経ヶ峯、布引の山を仰ぎ、「吾等の思い山に似て」と心から謳うことができた。

② 川を卒業して四十年ぶりに帰郷。三重県に勤務、大先輩の方々からいわれたのは「同窓会の総会で決っているから創立百年記念祭をしなければならぬ。」

③ 川を卒業して四十年ぶりに帰郷。三重県に勤務、大先輩の方々からいわれたのは「同窓会の総会で決っているから創立百年記念祭をしなければならぬ。」

④ 重県へ帰つてから、同窓も植樹祭も、土光臨調以上の節約金つまりである。

津高同窓会として祝辞を申し上げた機会に、その寸景を再現してみせたところ、セーラー服の少女たちは、成熟ころか、熟年から老練の境地に達せられ、昔を思い出してニヤニヤ、ニコニコされる方深をうかべられる方も、男女共学のことにちなみは同窓の先輩である。時の流れ、花のいのちをおもひ、質実剛健、男女別学のアンソロジーを味わうひとときとなつた。

⑤ 津高同窓会として祝辞を申し上げた機会に、その寸景を再現してみせたところ、セーラー服の少女たちは、成熟ころか、熟年から老練の境地に達せられ、昔を思い出してニヤニヤ、ニコニコされる方深をうかべられる方も、男女共学のことにちなみは同窓の先輩である。時の流れ、花のいのちをおもひ、質実剛健、男女別学のアンソロジーを味わうひとときとなつた。

た。記念館も完成した。

⑥ 重県知事をはじめ、多くの先輩、五十八校の卒業生から、「よき金があったなあ」といわれ、「(重)二万の同窓生から平均一人二千五百円の浄財のキャンパスですよ。やつぱり伝統ですね」と、ちよつぱり胸をほりたい気持ちだった。

⑦ 五月一日、結城神社の例祭で、宮司が「戦前戦中は、津中学校も柳山の女学校も、全校で参詣していただきましたよ」と、全国の結城家同族や参詣者に挨拶していた。ふと、結城神社界隈の麦畑のみちで中学生の行進が、参拝をおえて帰ってくる柳山の女学生の行列とすれちがう光景が甦つた。質実剛健のマスクの下から、ちらりとした小学校の同級生が、いつのまにかずいぶん成熟したなあとおもっただけが、男女関係の古典時代を彩る寸景だった。翌五月二日、三重同窓会に招かれて、津高同窓会として祝辞を申し上げた機会に、その寸景を再現してみせたところ、セーラー服の少女たちは、成熟ころか、熟年から老練の境地に達せられ、昔を思い出してニヤニヤ、ニコニコされる方深をうかべられる方も、男女共学のことにちなみは同窓の先輩である。時の流れ、花のいのちをおもひ、質実剛健、男女別学のアンソロジーを味わうひとときとなつた。

県進出を報するなかで、朝日一紙が同窓会の影の効果をほめかしていたのも、百年祭の直前の夏だった。中退して海外に雄飛していた伯東ナルコの高山氏も津に帰り、工場着工も近いという。

⑧ ケ業、布引のみえる丘にクラフハウスをとりこんだ記念館も、各々が活用して活躍の基礎としているが、建てた沢下春男前校長を受けて、巨人の沢村投手の実弟の袖野貞三校長が、スポーンに勉学に一中魂を吹きこんでくれることになった。

⑨ 百年祭をおえた役員一同が、昨年八月の総会で総辞職の意思をかためたところ、こわい大先輩が、同窓会名簿の発行が残っているぞと全員留任を決められ、「あのひと、五十年祭も百年祭も出席したので、百五十年祭も出席してタイムカプセルをのぞいてみるつもり。

58年度

三重桜部会総会

一、**昭和58年4月28日(日)**
10時30分より

一、**榊原新館にて**
(久居市榊原)

詳細は、学年幹事をおとしてご連絡いたします。お湯につかって旧友をあたためたいとおもいます。いままから予定しておいてくださつて、多数ご参加ください。お待ちいたします。

津高大阪同窓会(二)案内

一、十一月十四日(日)十一時より

一、**阪神百貨店九階グリーンルーム**で
(連絡先) 東成区深江南二一〇一五
野崎病院内(TEL) 九七一三三五〇六)

各地同窓会連絡先

津高東京同窓会
東京都中央区日本橋一六六一六
久高ビル五F 岡三興業内
TEL(03) 319091

津高大阪同窓会
大阪市東成区深江南二一〇一五
野崎病院内
TEL(07) 213506

津高京都同窓会
京都市左京区下鴨森本町一五
生研会館内
TEL(78) 11107

津高名古屋同窓会
愛知県海部郡飛島村木場一丁目二五
瑞穂会館内
TEL(05675) 151691

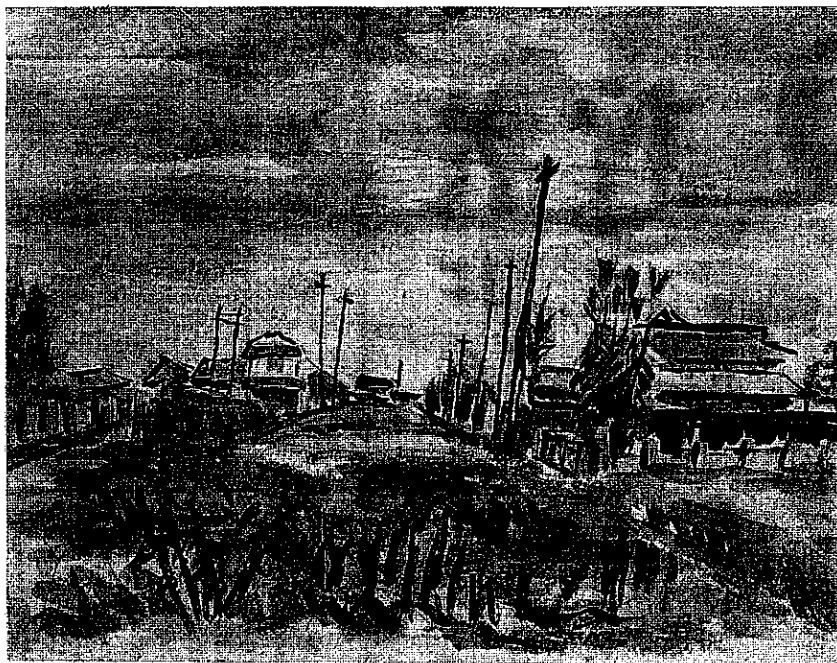
(三重県別紙)

悪童

野口 章



定年退職の日、私は職員室の仲間に挨拶してまわったあと、女園前にとめておいた車に乗りこみ、「いや、まてよ」と思っなおす。そしてグラウンドへ出る。黒と黄の横縞のユニフォームをきた連中が、雨あかりの泥をはねて勢よく走っている。強く



『五間道路風景』へへ 昭和14年卒 稲垣 裕

津中在学二年生のときに描く。だから昭和十一年頃の五間道路の風景。隔世の感あり。むかつて右にみえるのが校長官舎である。実になつかしい。稲垣裕さんがとけてくださった。

もないラグビー部だが、九年前に自分がつくったクラブだから愛着がある。「おお、やっちゃん、やっちゃん」と自分に近いまかせ、カメラのシャッターをおすまに、網膜に焼きつけておく。

校門を出て、五間道路を運転しながら、一抹のさびしさとなつかしさを頭をよぎる。教師としてよるといふより、自分が津中時代をすごしたこの校舎を去る。

小林徳太郎校長の時代であった。校長のむすめさんは、黄昏が深まる頃、そのむすめさんは、津中正門前の校長官舎に向って五間道路をひとり帰って行く。当時は五間道路の両側は水田がつづいていた。車はもちろんのこと、人通りも少なかつたから、二百米も先からそれとわかつた。クラブの練習をおえた悪童どもは、無言で道端の溝に横隊になる。距離三十米になつた頃、一番右の者が号令を

かける。「歩調トレツ」。「カシラ、右ツ」と叫ぶや、一斉に注目する。むすめさんは真赤になって下を向いて行く。誰かそのものような小林校長にたいして海賊をかけたような気がしたものだ。

津高を去る



Shimada Akira

「高校の教師をやるのならぜひ母校で」という私のねがいが、当時の市川校長に招かれて、かゝつたのが昭和十九年。火災あとの校地に、いまの三号館と同窓会の援助を仰いだ一号館と本館、それだけが新しくでき、

それ以外はまた旧校舎という頃でした。それ以来、新しい二号館、四号館が次々と建てられ、現在のように整備された。昔れどもが学んだころの津中の姿は、校庭の立木や弓道場や硬式野球のバックネットとテニスのあたりにしはれるだけで、面目を一新してしましました。おもえば戦争をはさんで四十年を閉じたのですから、かわるのは当然でしょうが、ふとこゝろにかわ



野口・蒔田両先生歓迎会一洞津会館にて

前をひかえた。翌日、警察が学校に通報する。父は召喚で大目玉。

宇治山田中学でラグビーの試合があつた日である。帰るのもまだ早いから映画でも見ようというこゝろになつた。「狂恋女師匠」とかいう怪談ものだった。保護者の同伴なしに映画をみるこゝろに突いたら、二重にスリルを味わつていた。一団が、夜の九時頃、新町駅にいたとき、運悪く、校外巡視中のナミちゃん(山中先生)に捕まつて御用、全員訓戒。

に突如として入隊することになつた。亀山の郊外の彼の家で、十五人が集つて酒宴、限度を知らないから、英雄を取りつてグイグイ飲む。帰途つたなかで、亀山からの国鉄の列車の中で、みな、グエーグエー吐いてしまつた。同乗していた刑事が、手帳に名

痛恨はおのれに對してである。徹底した不勉強、問題意識のない軽薄な学生であつた。おまけ

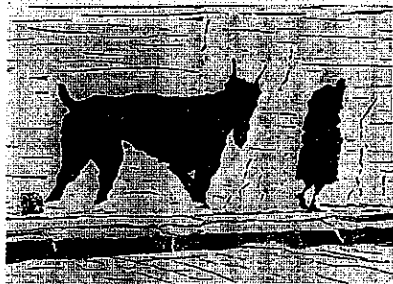
とにかくかたただけで、そういう方向にすすむことができたことに満足せねばなるまいとおもつています。

同窓の大先輩田中治郎左衛門氏(齊)にめぐりあい、学生の期間を通じて、望外の多大な恩恵にあずかりました。そのご恩の万分の一にでもむくいねばという気持が、母を働かしたという私のねがいのなかにありました。いま、ふりかえつてみると、実際にはまことに微力であつたこと恥かしくてまじりませんが、

野口、蒔田両先生ご二退官記念会ひらく

さる四月二六日、野口 昭和14卒・蒔田(昭和17卒)両先生の母校退官歓迎会が事務局主催でひらかれました。大阪か

らかけつけてくださった人もあり、三十数人が出席、かわるがわる両先生にまつる思い出なご語り、両先生を激励しました。



カッタ 白日会 駒田治夫氏

「戦後は終わっていないが」

私の津中教師時代、いちばん心にかかっている思い出。昭和十八年四月、当時の満洲国から二人の留学生がきて、たまたま私が担任であった。遠く故国をはなれた少年が、二年あまりの津の生活をあとに、敗戦直前、送還されていった。私は感涙中。同級生も勤労動員にかり出され、外国人である彼等二人だけが、さびしく寄宿舎にこもっていた。

生きていた李惠発！ ”ぜび、津に招き再会したい”



李惠発君を担任した米本宏先生

『あゝ母校』P 226参照

創立百年記念誌「あゝ母校」に米本宏先生が、敗戦まぎわに津中学にいた満洲国(中国東北部)留学生一李惠発君と何興格君の安否を気づかって書いてくださった一文が出ています。そしてその後、奇しくも李惠発君は公用で東京にやってきた。同級生たちが東京に飛ぶ。こんどは、ぜび李惠発を津に招いてクラス会をひらきたいとわき立っています。そのいきさつをふたたび米本先生に書いてもらいました。

「ハヤシ」君へ突然電話が……
ところが……ところが……その一人、李惠発が生きていることがわかったのである。今年になって、彼が東京にきていることがわかったのである。公用で日本へ出張中の中国人一行の一人として、李惠発は、通訳やホテル案内人にならんで、津市の「ハヤシ」という同級生を探したらしい。食費の欠乏した時代、「ハヤシヤホテル」に招かれて、何度も食事ともにしたの思い出したのだらう。その「ハヤシ」というのは、いまの沢口雅也君で、なかなか連絡がつかず、同じ学友の林平和君宅に電話が通じたことがきっかけとなり、同級生たちは色めきたった。どうして津に彼を呼びたいと交渉をは

さて、あの二人は日本海を無事渡って、父母のもとに行きつくことができたのであろうかと、三十数年來、四方八方に手をまわしてしらべましたが、香として消息がつかぬ。「われわれの戦後は終つてはいない」というのが、わたしをふくめた同級生一同の気があつた。このことは、一昨年の津高創立百年誌「あゝ母校」にも駄文をのせていただいたとおりである。



中華人民共和国衛生部 長春生物製品研究所副所長の李惠発君(中央)と東京で会う同級生沢口雅也、海住嘉之の両氏。

「あゝ母校」の中の駄文を「コピー」して
彼はいま、中華人民共和国衛生部、長春生物製品研究所の副所長をしている。少年時代の童顔と、茶目っ気は残っているものの、背がのびたいじん(大人)の風格をそなえている。あの日、日本をはなれて朝鮮半島に上陸、故國満洲にたどりつくまでのつらさにもまじって、その翌日には、ソ連の進攻で家を焼かれ、生活の苦しさのただなかに直面した。さすが勉強をすてず、中国のエリートとして、ごんちの地位をきずいた。沢口、海住君らは、「あゝ母校」の中の私の駄文をコピーしてゆき見せたところ、なつかしうに、先生はまだおられるのかと聞いて、驚いていたという。彼が離日の前夜、私の家の電話が鳴った。

「よかったよかった」とくり返し、電話切れる
「先生のご健康を知りました。お目にはかかれませんが、お話をしたい……」といつて、彼は次からつぎへと当時の事情を語りはじめた。私は「うん、うん……」と聞き入り、「よかったです」とくりかえすばかりであった。「日本に留学していたというので、つらい立場に立たされたのではないかとともにたずねてみた。「絶対に、そんなことはありませぬ」ときっぱり答えてくれた。ほんとうによかったとおもった。「先生、長春へきてください。ぜび……」とくりかえしながら、彼の電話は切れた。声も若いし、敬語のつかい方もたしかで、私は津中時代の彼から今日の面影を追うのに必死であり、興奮のあまり、その夜の更けるのを忘れていた。

「先生のご健康を知りました。お目にはかかれませんが、お話をしたい……」といつて、彼は次からつぎへと当時の事情を語りはじめた。私は「うん、うん……」と聞き入り、「よかったです」とくりかえすばかりであった。「日本に留学していたというので、つらい立場に立たされたのではないかとともにたずねてみた。「絶対に、そんなことはありませぬ」ときっぱり答えてくれた。ほんとうによかったとおもった。「先生、長春へきてください。ぜび……」とくりかえしながら、彼の電話は切れた。声も若いし、敬語のつかい方もたしかで、私は津中時代の彼から今日の面影を追うのに必死であり、興奮のあまり、その夜の更けるのを忘れていた。

中華人民共和国衛生部 長春生物製品研究所副所長の李惠発君(中央)と東京で会う同級生沢口雅也、海住嘉之の両氏。

「よかったよかった」とくり返し、電話切れる
「先生のご健康を知りました。お目にはかかれませんが、お話をしたい……」といつて、彼は次からつぎへと当時の事情を語りはじめた。私は「うん、うん……」と聞き入り、「よかったです」とくりかえすばかりであった。「日本に留学していたというので、つらい立場に立たされたのではないかとともにたずねてみた。「絶対に、そんなことはありませぬ」ときっぱり答えてくれた。ほんとうによかったとおもった。「先生、長春へきてください。ぜび……」とくりかえしながら、彼の電話は切れた。声も若いし、敬語のつかい方もたしかで、私は津中時代の彼から今日の面影を追うのに必死であり、興奮のあまり、その夜の更けるのを忘れていた。

同窓会名簿編集日程とおねがい

57年	2月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	58年	1	2	3
		調査カード発送	未返信者に調査カードの督促	不明者名簿の作成	同窓会報及び予約案内状の発送	住所不明者の追跡調査	組版	文字校正	印刷	名簿購入者へ発送					
		24,283枚 発送	10,300枚 発送	約4,000人	(返信者 14,156名 未返信者 6,000名)										

1、調査について

住所など、消息不明者の方の調査は、みなさんお一人お一人の情報が最大の調査手段です。住所未確認者名簿を同封しますので、ご返信の方がありましたら、「ぜび連絡カード」にご記入の上、ご連絡ください。

調査カードの回答がまだの方は、いまからでもすぐにご回答ください。

2、名簿の申込みについて

名簿の販売は「予約前納」になっております。指定の郵便振替用紙にて期日までに振込んでください。

(注) 名簿は「予約限定出版」です。期日までに申込みいただけませんと購入いただけません。

現在、上の日程表にもとづいて「会員名簿」発行のための作業を行なっています。つぎの点に注意されて、ご協力をおねがいます。

